

沖縄に心を寄せる平和のつどい ～会沢芽美さんを迎えて～

9月6日

□9月6日(火)ねむかホールにて14:00より「沖縄に心を寄せる平和のつどい～会沢芽美さんとともに～」コンサートが開催されました。忙しい中、ねむかホールが満員になる70名余りが参加し、会沢芽美さんの「歌と一人語り」、そして参加した合唱団やソロ歌手の独唱、劇団の語り、紙芝居演者等の出演と、盛りだくさんの内容のミニコンサートになり、会場は会沢芽美さんの気持ちに寄り添って、「がんばりましょう！」の雰囲気に包まれました。



□会沢芽美さんのプロフィール

北海道小樽市出身。宮城学院女子大学音楽科卒業。ソプラノ歌手。1974年に沖縄に移住。(在沖42年・2016年現在)合唱団の指揮者を歴任。沖縄発信の平和の歌を創作。県内・全国で演奏活動を続けられる。

1998年読谷村(よみたんそん)に、沖縄を訪れる全国の人々と共感できる場として、「うたごえペンションまーになー」を開設。オーナー兼シェフとして、手作り料理も披露。リピーター多し。

「日本うたごえ祭典創作賞・歌唱賞同時受賞」。CD「沖縄の白い道上で」「嘉手納より」「空よ海よ風よ」「大洋の子供たちI・II」「ウージぬ花」ほか多数。

「今、自分に出来る事で沖縄からの平和のメッセージを伝えることは沖縄に住んで、沖縄の痛みを知ったものの責務です。」そう言い切り、年に百回以上にわたるコンサートや演奏活動をこなし、日本中を駆け回っている。沖縄在住の道産子歌手(会沢芽美さんとの各種コンサートの紹介文より)



会沢さんは、今週は9月4日(日)「北摂愛と平和のコンサート」(茨木クリエイトセンター)へのゲスト出演、5日(月)吹田市の「千一・片山・山手9条の会」主催の「愛と平和の吹田コンサート」へ、そして今日のねむかホールでのコンサート、7日(水)摂津市での「芽美さんと創るコンサート」と連日、大阪での「うたと一人語り」の感動的なコンサートを続けておられます。

今回、芽美さんは、71年前のアメリカ軍沖縄上陸後の「沖

「繩戦」で集団自決に追い込まれた読谷村の「チビチリガマ」の壕(洞窟)の悲劇を、具体的な逸話の数々の紹介とともに語られました。また、2005年に普天間基地をジュゴンの住む豊かな海・辺野古へ移設することが決まって以来、地元のオジー・オバーを中心に海と命を守るために座り込みが粘り強く続けられ、一時は建設を断念させたといわれる事件を「命の海の話」として「歌と一人芝居」で演じられました。会場は沖縄戦で沖縄県民が味わった悲惨な事実に涙し、戦後の県民の戦争反対と基地撤去への粘り強い闘いの話に勇気づけられていました。

□芽美さんを驚かせた多彩なコンサート



第2部では今回の集いの実行委員会に参加した団体が、日頃の活動の一端を歌と劇などで披露し、芽美さんを元気づけました。男声合唱団昴が「白樺」「わしらの朝は海からはじまる」の2曲を21名の合唱で、新婦人中央支部ルンルンが「民衆の声が聞こえるか」を、そして「保母サークルなのはな」が「美ゆらうた」「並んで歩かなくても」を歌いました。テノールソロの千秋昌弘さんが「祖国と女たち」「さとうきびばたけ」を熱唱されました。



また、立川和子さんが紙芝居「白旗をかかげて」を、「劇団きづがわ」が「語り」を披露され、立川孝信さんが創作曲「祈りの海」を歌われました。



□辺野古・高江の人々に連帯して

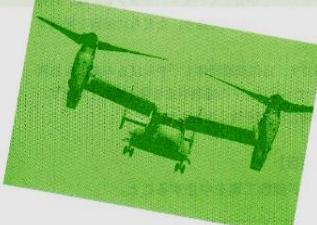
安倍自民党政権は県民の反対を押し切って無謀な普天間基地の辺野古移転を强行に推し進めようとし、また今、緑の自然豊かな「ヤンバルノ森」・高江に戦争のための訓練場・オスプレイのヘリパッド（離着陸地帯）を建設するために、内地から500人の府県警察を動員して、反対の県民を権力的暴力で排除しようとしています。沖縄から基地がなくなることこそが、日本にとっての新しい21世紀を生きる道であり、県民にとっての幸せの道であるのに・・・

最後に、今「辺野古、高江に新たな基地はつくらせない」と座り込みを続ける人々に連帯して、みんなで「座り込めここへ」「沖縄今こそ立ち上がる」を合唱し、会沢さんの指導で沖縄民謡に合わせて踊り、会場は大きく盛り上がってお開きになりました。

みんなの力で ヘリパッド建設を やめさせよう！

いのちの森壊さないで

沖縄県東村高江は県北部にあります。そこにはやんばるの森がひろがり、世界にも珍しい希少動物（ノグチグラ、ヤンバルクイナなど）が棲んでいます。世界自然遺産、国立公園の候補地にもなっている自然豊かなやんばるの森に、米海兵隊のヘリパッドはいりません。



米海兵隊は最新鋭輸送機・オスプレイ（写真）を2012年から沖縄に配備し、完成した2つのヘリパッドを使用しています。オスプレイはアメリカ本土やアフガニスタンで墜落事故を起こしています。

住民は、爆音と墜落の危険にさらされ、安心して暮らせません。

政府・防衛省は工事を中止して、住民と話し合いを

ヘリパッドの建設計画は、1996年のSACO合意にもとづいてすすめられているもので、辺野古の新基地建設と一体のものです。

くらしと自然環境を守るために、住民が国に説明と話し合いを求めてきました。安倍政権は、全国の機動隊500人以上を動員して住民、市民を暴力的に排除して、工事を強行しています。

私たちは、政府・防衛省に対して、工事を中止して、住民と話し合うことを求めています。

署名にご協力ください

安保破棄中央実行委員会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13
TEL: 03-3264-4764 Eメール: anpo-haiki@nifty.com



ノグチグラ
ヤンバルクイナ

沖縄・高江でのヘリパッド工事中止を求める

年 月

衆議院議長様
参議院議長様

【要請題旨】

防衛省・沖縄防衛局は2016年7月から、沖縄県東村・高江で新たなヘリパッド建設に向けて工事を再開しました。安倍政権は、全国から機動隊を動員して、道路を封鎖したり、抗議する住民を暴力的に排除して工事を強行しています。

高江の住民は、集落を取り囲むように6つのヘリパッドが建設されることに強い不安を抱き、軍用機墜落などへの危険を感じています。

すでに完成した2つのヘリパッドを、普天間基地に配備されたMV22 オスプレイが使用し、100デシベルもの騒音を撒き散らし、高江の子どもたちが脅えています。オスプレイは、開発段階から墜落事故を繰り返し多数の死傷者を出している欠陥機であり、ただちに配備を撤回すべきです。

ヘリパッド建設は自然を破壊する点でも問題です。自然保護団体も「やんばるの森の自然環境と野生生物はかけがえのないものである」としてヘリパッドの建設中止を強く求めています。住民の平穏な生活と自然保護のために、下記事項の実現を強く求めます。

【請願項目】

●防衛省は、沖縄・高江での米軍ヘリパッド建設工事を中止すること。

氏名	住所

取り扱い団体

【送付先】安保破棄中央実行委員会 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13